

【図画工作科・小学3年・「クミクミックス」】①

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 段ボールの板を組合せたり、形を変えたりし、活動を工夫してつくる。

(思考力、判断力、表現力等) 形や組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもちながら造形的な活動を思い付き、どのような活動にするか考える。

(学びに向かう力、人間性等) 進んで段ボールの板を組み合わせ、活動に取り組もうとする。

ICT活用のポイント

- 用具の扱いや安全面についての視覚による具体的な情報の提示
- 振り返りの場面でのイメージの共有と個の学びの記録

【出会う】

段ボールに切り込みを入れて、組み合わせる方法を知る。

【つくる】

段ボールに切り込みを入れて、面白い形になるように組み合わせる。

【振り返る】

活動を紹介し合っ、段ボールを組合せてできた形の面白さを味わう。

事例の概要

ICT機器を活用し、段ボールカッターの適切な使い方について確認したり、自分や友達のつくったものの形の面白さや作り方の工夫を共有したりする。

【事例におけるICT活用の場面①】

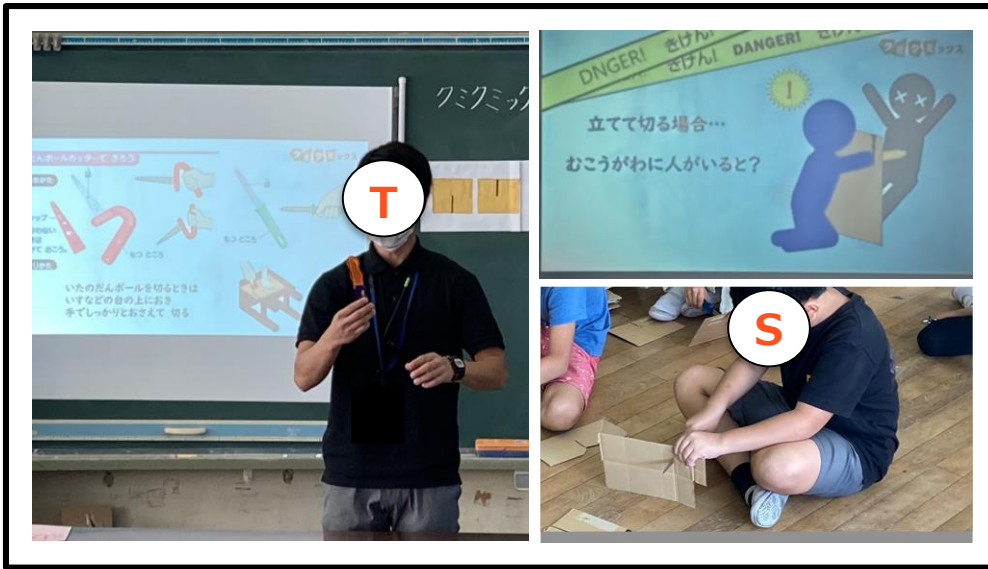
- プレゼンテーションソフトを使って、段ボールカッターの基本的な使い方を知り、予め扱い易い大きさに切っておいた段ボールを、試しに切り込みを入れて組み合わせる。また、安全面についても注意事項をアニメーションで提示し、危険な道具の扱いについて、児童が具体的に考えられるようにする。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 自分や友達のつくったものの写真を気に入った角度から写真を撮り、写真にコメントを書き込んで、学習支援ソフトで共有する。共有したことを基に、改めて互いのつくったものを鑑賞し交流することで、これまで気付かなかった形の面白さや作り方の工夫を感じ取り、イメージを広げられるようにする。また、撮った写真は、振り返りカードとともに、ICT機器に保存し、学びの履歴として蓄積していく。

【図画工作科・小学3年・「クミクミックス」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



- 導入時の用具や安全面の確認等については、プレゼンテーションソフトを使い視覚的に提示することで、児童がより具体的に扱い方や注意事項を捉えることができる。
- 動画での提示したり、学習支援ソフトによる確認内容の児童に共有したりすることで、児童は必要に応じて確認することができる。

【活用したソフトや機能】

- ・プレゼンテーションソフト
- ・学習支援ソフト

- ・安全面など常に意識させたいことは、板書やフリップ等に残す。
- ・必要に応じて児童が使えるように資料を共有する。

【事例におけるICT活用の場面②】



- 振り返りの際に、自分の気に入った見え方や自分のイメージに合った場所や角度からつくったものを写真に撮り、自分や友達のつくったものを改めて見ることで、形の面白さや形の組み合わせの工夫などに気付くことができる。
- 写真にコメントを書き込み、学習支援ソフトで共有することで、多様な見方や感じ方に触れ、イメージを広げることができる。
- 特に造形遊びの題材では、制作途中の作品の写真や振り返りシート等を保存することで、学びの記録を蓄積しておくことができる。

【活用したソフトや機能】

- ・カメラ
- ・学習支援ソフト

- ・写真やコメントを共有した後に、再度、つくったものを自由に見合い交流する時間を確保する。